

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870900192
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム 桃太郎
所在地	愛媛県四国中央市中曽根町994番地
自己評価作成日	平成26年6月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体病院が近くにある事。訪問看護ステーションにしおかとの契約。併設施設（老人保健施設）には、看護師常駐。常駐ではないが内科医もあり、24時間安心した生活を送って頂けます。緑に囲まれた自然あふれる我がホームからは、市内や瀬戸内海が一望。海に沈む夕日は、特に美しく感動的です。開設当初から一緒に暮らす愛犬ハナに癒される日々。入居者のみなさんも、ハナが大好きです。人と動物との触れ合いを大切に、毎日が楽しく、笑い声の絶える事の無いグループホーム桃太郎です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

日々の散歩のほかに、法人施設の車を借りて出かけておられる。現在は月に2回、外出に出かけておられ、利用者は、寿司店のランチを好まれるようだ。店員の方とも顔なじみになり、ネタを食べやすいものや好みものに替えてもらえるようだ。調査訪問時には、来月行う家族会の案内に使用するかがきを利用者と一緒に買いに行く相談をされていた。
玄関を出たところには長椅子を配置し、ちょっと外に出て過ごせる場所を作っておられる。プランターにはプチトマトが育ち、赤い実を付けていた。外でお茶を楽しむ時には、使いなれている背もたれのある居間の椅子を持ち出して使用されている。調査訪問時には、利用者が夏用の貼り絵を作っておられ、でき上がった作品は、カレンダーを付け併設老健施設に飾られるようだ。これまで作成した貼り絵は共用空間の各所に飾られていた。掃除を職員と一緒にを行う利用者もいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25） 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19） 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38） 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20） 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38） 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4） 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37） 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12） 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49） 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31） 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28） 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

医療法人 康仁会

(ユニット名)

グループホーム 桃太郎

記入者(管理者)

氏名

大久保 裕子

評価完了日

平成26年 6月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念と目標を忘れぬよう施設内に掲示し、入居者の皆さんが、我が家で暮らしていた頃と同じ様に、ゆったり過ごせるよう支援している。月1回のカンファレンスや日々の申し送りで、確認し実践につなげている。	
			(外部評価) 2年前に職員で話し合い作成した、「安心 安全 楽しい我が家」という事業所理念は、「皆さんがゆったり過ごせる暮らしを目指す」という目標とともに、玄関先や2階のコミュニティスペースに掲示されている。管理者は、家庭的な事業所づくりを目指しておられ、職員には、「ホームは施設ではない」ことを話し、利用者がマイペースで暮らせるような支援ができるよう導いておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会活動の少ない地区にて、ご近所の方とは散歩時等で挨拶や会話を持つ事が多い。一昨年度は、高校生やボランティアの方々を施設に招いての交流も多かったが、昨年よりは、外食や買い物他、出かける事で地域の方々の協力や理解を得る事が多くなった。	
			(外部評価) 事業所は、「地域の方々に気軽に立ち寄ってほしい」と思っておられる。近所の方とは、立ち話したり、野菜のおすそ分けもある。以前、回覧板でAED(自動体外式除細動器)の使い方について講習会の案内をした際には、地域から1名の方が参加されたこともあった。地域性等もあって、地域との関係づくりには難しい面もあるようだが、回覧板の活用や地域行事への参加等、地域とかかわるような機会を積極的に作り、つながりを作っていきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて勉強会を設けたり、施設に届く講演会の案内を、家族には郵送や面会時。地域には回覧板にて、お知らせしている。残念ながら、地域の方々の積極的な参加はあまり見られていないが、今後も続けて行きたいと思う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 家族・地域の方々に興味を持ち参加頂けるような内容を考え、定期的開催している。より多くの方にご参加頂きたく、休日の開催も試みたが必ずしも良いとはいえなかった。会議案内は、家族には毎月末のお便りで郵送し、地域には回覧板を回して頂いている。少し離れた民生児童委員の方には直接の訪問にて案内をさせて頂いている。	地域性等もあり、関係づくりに難しさもあり、会議への参加者を増やすことにつながらない現状があるようだが、さらに、利用者のこれまでの地域社会とのつながり等を探りながら、地域とのつながりづくりに取り組まれてはどうだろうか。
			(外部評価) 会議案内は、併設する介護施設に掲示したり、回覧板で回しているが、現在、地域からの参加者は民生委員の方のみになっている。会議は、事業所から行事報告を行い、議題を挙げて、連携する訪問看護ステーションの看護師から、「老人の特性と緊急時の具体的な対応」についてお話を聞かせてもらったり、避難訓練や家族会と併せて行っておられる。ボランティアの方に、「絵本とピアノと歌」を披露してもらった時には、三島高校の生徒も参加してくれ一緒に楽しまれ、そのあと茶話会で親睦を深められた。ふれあい相談員の訪問に合わせて会議を行ったようなこともあった。管理者は、今後、他グループホームと会議を通じ、行き来したいと考えておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 電話やファックス・直接出向き相談・報告等を行っている。市の方からは、運営推進会議の参加や、月1回ふれあい相談員の方が来設して下さり楽しくお話ししたり、ご指導を頂いている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの担当者には地域とおつきあいの工夫について相談されたこともある。市内のグループホームが自主的に集まる交流会があり、日ごろの悩みや事例等をそれぞれが持ち寄り、意見交換されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は勉強会を持ち理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んではいるが、このご時世、玄関等の施錠は行っているご家庭の方が多いかと思われる。安全性を重視し、ご家族の方のご理解を得た上で玄関には施錠。入居者の方には、簡単に解錠する事が可能な為、センサーも使用している。言葉の拘束には特に気をつけており、職員間で話し合い、時には注意・反省を行い、聞き入れる姿勢を持つ様心掛けている。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸にしており、道端に咲くあじさいの花が見えていた。事故防止のため、居室や廊下の窓は、開く幅を制限していた。又、階段の勾配が急なため、扉を付けて鍵をかけており職員のみが夜間に使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会資料や新聞等の切り抜きをファイルし、いつでも目を通す事が出来る様にしている。また、日頃の何気ない会話の中で言葉が、言葉の暴力となっている事が見過ごされない様、職員同士互いに注意しあったりしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 過去にこの制度を利用された方がおられ、実際に学ばせて頂く機会があった。利用する中で直面するいろんな事態に、家族と後見人、どちらに決定権があるのか悩む事が多くあった。今後、さらに学んで行く必要があると思われる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、入居中に起こりうる可能性の事態におけるその都度が、家族の方には一番心配のようで、しっかり話し合い、十分にご理解頂いた上で契約している。また、改定・変更等があれば、その都度、新しい書面を発行し口頭でも説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時には、苦情相談窓口を書面で知らせ玄関にも掲示し意見箱も設置している。面会時の何気ない会話の中からも、年1回の家族会では、入居者・家族の皆さんと会食したりしながら、意見や要望等を聞かせて頂いている。 (外部評価) 管理者は、ご家族と顔を合わせて報告することを大切に考えておられ、申し送り等で利用者の情報について共有し、職員誰でもご家族に報告できるよう取り組まれている。事業所便りとは別に、管理者は毎月、利用者個々の体調や様子を手紙にして書類に同封されている。評価機関が作成する家族アンケート集計表のコメントをきっかけに、事業所では、ベッドメイキング時には、ラバーシートをシーツの下に敷くように、職員で申し合わせられた。入居説明時には、ホームでの一日の過ごし方について、午前中は、ドリルや塗り絵、体操を行い、昼食後は、お昼寝の時間があること等、大まかに説明されている。年に1回家族会を行っており、厨房で作っている食事を一緒に食べてもらい、意見をうかがう機会を作っておられる。今年度は、7月に家族会を行うことを計画しており、終末期支援の在り方について、ご家族と話し合うことを考えておられた。	ご家族は、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、ご家族の理解や協力はとても大切である。ご家族や利用者の意見や希望を十分に反映したサービスに向けて、今後さらに声を聞く機会に工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、日頃より、職員一人一人の意見や要望を聴くように心掛けている。一緒の日勤帯やカンファレンスで、職員が意見を出しやすい雰囲気にも注意している。代表者への意見や要望は、可能な限りのすべてを、管理者が代表者に報告している。	
			(外部評価) 毎月、職員だけの会議や法人同席の会議があり、現場職員の声を聞く仕組みを作っておられる。又、直接ファックスで法人に意見を出す仕組みも作られている。さらには、半年ごとに職員個々に自己評価して管理者が個々にコメントし、面談する等して、意見を取りまとめ、法人に挙げるようになっていく。職員からの提案で慰安旅行が実現したようなケースもあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は半年ごとに自己を評価し、管理者はその評価をもとに、個々の職員と一緒に反省や評価を行う。代表者は、その報告をもとに、職員の意欲向上に繋がるよう組織的に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内での研修には気軽に参加。また、可能な限りで、法人外の研修への参加もしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 年4回開催の、市内グループホーム交流会には、可能な限りの職員で毎回出席し交流を行っている。法人内のグループホームとは、運営推進会議や、情報交換・報告など随時行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で得た情報や、入居後に本人から得た情報とともに、生活の中から発する1人1人のつぶやく声や思いを大切に、あせらず信頼関係をつくるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、ゆっくりお話させて頂き、入居前に不安と感じている事や要望を念頭におき、それをサービスに活かしたり、面会時や電話・お便りなどで伝える事により、安心して頂ける関係を築く努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の話を聴き、その都度確認し合いながら支援の見極めを行っている。対応が難しいと思われる時には、他の事業所への紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者には、人生の大先輩として学ぶ事も多く、互いに支え合う関係を作っている。日々の生活の中で、教えて頂いたり手伝って頂いたり。互いの難しい所を補いながら感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には本人の様子を伝え、支援の方法や要望を聴かせて頂きながら、家族の希望を大切にしている。居室やリビングで、家族水入らずの時間を過ごして頂いたり、家族会では、皆と一緒に食事を楽しめる様なセッティングも行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 施設には、家族や知人が気軽に訪れやすいような雰囲気作りをしている。買い物に出かけたり、外食を楽しんだり。週に1回のリハビリ受診では、顔なじみの方と出会ったり。思い出の場所に出かけたりと、これまで大切にしてきた関係や思いが途切れないよう支援を行っている。 (外部評価) 併設老健施設に入居するご家族の方に会いに行けるよう支援されている。友人達が訪ねて来てくれる方もあり、職員は、2階のコミュニティースペースを使って過ごしてもらえよう話しておられる。利用者は、「昔はお遍路さんがよく通っていた」とよく話されるようで、管理者は、お遍路さんの休憩所に事業所を使ってもらうことも検討されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事や洗濯・食事の準備。日々の生活の中で、入居者同士がコミュニケーションを取りやすいような環境を整えたり、必要な時には職員が間に入り、皆が、楽しい日々を送れるよう工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院や他施設に入居されたりした時は、話し相手にと出向いたり、必要に応じては、その後についての相談にも応じている。どこかで、ばったりお会いした時には、近況報告し合ったりしながら、本人や家族が持つ不安を最小限に出来るよう努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、散歩・入浴・受診等個別対応時に、個々の思いをゆっくり聞いたりしている。会話から思いを上手く引き出せない方には、寄り添い声掛けの中で生じる表情からくみ取ったり、家族からも情報を得るようにしている。 (外部評価) 人生史の書式を作って、幼少期からの情報を記録するようになっている。又、会いたい人、お好きな食べ物等の情報も記録されていた。ケアマネジャーは、「もう少し、ご自宅で暮らしていた頃の情報があれば、ご自宅と同じように過ごせるよう支援できるのではないかと話しておられた。調査訪問時、利用者のおひとりが居室に案内していただき、ご自分のお若いころの写真や思い出のものを見せて説明して下さった。今後さらに、利用者一人ひとりとゆっくりかかわるような場面を作り、さらに利用者と職員の信頼関係を築いていかれてほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、入居前や、入居後施設の生活に馴染んだ頃、本人や家族から、いろんな話を聞かせて頂いている。人生史シートを作成して、ケアプランに反映し、職員間も情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の生活リズムやスタイルを大切にしながら様子観察を行い、1人ひとりの小さな変化に対応できるよう注意している。気付いた事等は、職員間で申し送り情報の共有に努めている。また、本人の残存能力に着目し、過介護を避けるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回のカンファレンス時、日々の生活の中から得た個々の思いや要望・気づきや変化等を話し合い検討したり、計画作成担当者が、主に面会時に家族からの要望を聞いたこと等を、介護計画に反映させている。</p> <p>(外部評価) 利用者に暮らしの希望をお聞きすると、「何もないよ」と言われることが多いようで、ケアマネジャーは、普段の会話等の中からも希望や意向を探るようにされている。95歳を超える利用者には、家で自由にしていたように、事業所でも起床時間等自由にできるよう、見守りながら支援されている。</p>	<p>さらに、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう、地域資源とのつながりつくりに向けた介護計画にも工夫されてはどうか。利用者の持っている力を活かし、生活の自信や意欲につなげていかれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 研修参加にて学んだ記録の仕方を検討し、個々の様子をより解り易く記録。職員間での情報の共有を深め話し合うことで、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の「～たい」を大切にし、思い・希望・訴え、職員の提案など、可能な限り積極的に取り入れ支援する努力をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 民生児童委員やふれあい相談員・ボランティアの方々の来設や、市の開催する音楽会に参加したり買い物や外食を楽しんだりしながら閉鎖的にならない様になっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 家族や本人と話し合い、運営法人の病院医師が、かかりつけ医になっている方が、ほとんどである。定期受診は必ず職員が同行し受診結果の報告を家族にしている。また、緊急時に備え、救急措置についても説明し、家族とも書類を交互わっている。週に3回、訪問看護。週1回外来リハビリにて健康観察を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員が病院受診やリハビリに同行して支援されている。状態変化や薬が変更になったような場合は、ご家族に連絡し、変わらない場合は毎月ご家族に送付する手紙で、健康状態や受診時の様子を報告されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週3回の訪問看護には、日々の状態や変化を伝えアドバイスを頂いている。その他や緊急時には、併設施設に常駐の看護師。協力病院の医師や看護師と、24時間対応可能な状態になっている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 病院に行ったり電話連絡しながら、利用者の状態や今後の流れなどを聞き伝え、安心して入院生活を送れるよう情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看とりマニュアルは作成しているが、運営法人の病院や老人保健施設との連携があるため、現在は看とりを行っていない。看とりの必要性も重視すべきであろうが、緊急時にかけつける医師の確保等などの問題も多くあり、現時点では難しく思う。今後も、前向きに考えていきたいと思う。</p> <p>(外部評価) 現在は、歩行可能で家庭用浴槽に入れる方が入居の対象者となっており、歩行や入浴が難しい状態になった場合は、ご家族と相談して併設老健施設へ移行するようになっている。</p>	<p>法人では、今後、事業所での看取り支援にも取り組みたいと考えておられる。職員の中には、不安に思う方もいるようだが、話し合いや勉強の機会を重ねて、意見を出し合いながら利用者やご家族の希望に沿った支援に取り組まれてほしい。来月行われる家族会時には、終末期のあり方についてご家族に説明することを考えておられた。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 医師の指導のもと、マニュアルの見直しを行い、新しいマニュアルを作成。目の届くところに貼り、日頃より職員間で話し合っている。また、年に1回は、救命講習に参加するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署・地域・併設施設の協力を得ての防火訓練。毎月1回、利用者と職員にて、避難訓練を行っている。自然災害で地域一体が被害にあうような時、職員だけの誘導には限界があるため、大きな課題とし今後も検討していきたい。 (外部評価) 居室は、1階、2階に分かれており、いざという時に慌てず対応できるように、毎月避難訓練を行っておられる。避難場所は、玄関を出たところの広場となっている。又、年2回は、消防署の協力のもと訓練を行っておられ、併設老健施設の職員が駆けつけてくれるようになっていく。事業所は、山崩れの危険のある地域だが、山と事業所の間に高速道路が通っており、せき止めになるようだ。今後さらに、地域との関係づくりをすすめ、災害時の協力体制を築いていかれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴や排泄時の対応は、特に気をつけている。本人の失敗や間違い等への支援は、他者に気付かれない様な声掛けを行いながら、本人の誇りやプライバシーを損なわない様になっている。職員同士での確認・反省も行っている。 (外部評価) 管理者は、日々の中で職員に「利用者のできることはご自分でやるよう支援しましょう」と話しておられ、調査訪問時には、職員と利用者でお茶を運んでくださった。他利用者の言動が気になる利用者には、散歩やゴミ捨て等に誘う等して、気を逸れるように支援されたり、又、入浴時には個々にじっくりお話を聞く等して支援されている。職員の利用者への言葉使いや対応については、時に配慮が必要と感じるような場面が見られた。	利用者の個性や状態等もそれぞれであり、今後さらに個別支援の必要性を感じておられる。利用者が大切にしていることを一緒に大切にできるようなケアに取り組めるよう、この機会に職員一人ひとりが利用者への言葉かけや対応について点検されてはどうだろうか。職員自身で気付いたことは、ケア改善への最大の起点にもなる。気付きをもとにして、ケアの質向上に取り組まれることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分の思いや希望を伝えられる様な雰囲気作りを心掛け、集団の中や、個々との会話や態度の中から、思いや希望を探る事が出来る様な声掛けをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 決まりつつの日課はあるが、本人の意思を第一と考え、テレビを観たり、新聞を読んだり。居室で過ごされたり、自由に過ごしていただいている。散歩や外出の要望にも、出来る限りの対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で洋服の選択や更衣の出来る方には本人に任せ、選択困難な方には、好みの着やすい洋服が切れるような援助をしている。不十分と思われる身だしなみの際には、さりげない声掛けで、さりげなく手直しを行ったりしている。散髪等は、本人の希望を聞き行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の老人保健施設で調理された副食を、利用者と職員で盛り付け配膳している。食後は、職員と一緒に食器洗い。月に2回の食事作りは、メニューを考え一緒に買い出し。本人の能力の応じた準備や片付けを行っていただいている。月に1回以上、外食にも出掛けている。	
			(外部評価) ご飯は事業所で炊き、その他は、併設老健施設の厨房で作ったものを取りに行き、事業所で盛り付けるようになっている。職員も利用者と同じものを食べながら会話されていた。管理者は職員に、「食事を作る時間を利用者にかかわる時間に当ててほしい」と話しておられる。さらに、利用者主体の食事支援については、「食事を楽しむ」をキーワードにして、利用者の立場に立ち支援の工夫を話し合ってみてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士のもと、カロリー計算されたバランス良い食事を、個々にあった形(常食・刻み食等)で、提供している。水分補給は、3食の食事の他、3回のティータイムで定期的に摂取する他、居室等でも自由に摂取して頂けるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケア—の声掛けや、毎日の義歯消毒。使用歯ブラシやコップは、週1回の消毒を行い清潔を保っている。ご自身で行える方は本人に任せ、そうでない方には、声掛け見守りながら、ケアの介助を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けでのトイレ誘導。ほとんどの方が、紙パンツの利用をされているが、誘導にて、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。また、布パンツの使用の方には、できるだけ長く続けられる様な支援もしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在は利用者の自立度も高く、調査訪問時には、職員が誘導したり、ご自分でトイレに行っている様子がみられた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>自然排便を促す為の、水分補給。毎日、散歩や運動を行い、便秘予防に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>週3回以上の入浴を原則とし、主に午前中に入浴時間を設けている。入浴剤の使用で温泉気分を味わいながら、職員が見守る中、1対1の会話を楽しみ、1人ずつ、自分のペースやスタイルで入浴して頂けるよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>浴室には、一般家庭のような浴槽が設置されており、中庭が眺められる造りになっている。現在は、2日に1回入浴できるよう支援しており、入浴の誘いを断る利用者には無理強いせず、時間をずらしたり、次の日に振り替えたりして支援されている。事業所は現在、「家庭用浴槽に入れる方」が入居の条件となっている。利用者の状態によっては、シャワー浴のみの支援となり、ご家族から「浴槽で温まらせてあげたい」と希望があり、併設老健施設へ移行するようになったケースもある。利用者の状態に応じて手すりを増やしておられた。今後はさらに、浴室の周りに手すりを付けるか検討されていた。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中は、なるべく活動を促し、生活リズムを整えるよう支援しているが、体調や体力に応じて休息の声掛け等も行っている。昼食後は、午睡の時間を設け自由に休息をとって頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬内容の説明書を個人記録に綴じ、いつでも把握・確認できるようにしている。内服薬の変更時は、職員全員に確実な申し送りを行い、服薬ミスのないよう気をつけているとともに、家族にも連絡を行っている。特に服薬変更時には、体調変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野や、できる事を把握し、生き甲斐を持ち楽しく暮していけるよう支援している。また、外食や食事作りでは、食べたい物の希望を聞き、楽しみや喜びに期待を持って生活の支援行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、毎日少しでも、散歩や外気浴を行うよう心掛けている。体調に応じて、可能な限り全員そろってのドライブや外食。季節を感じられる場所やイベントにも出掛けている。また、朝刊のチラシを見てや、週に1回通うリハビリ時などに、個人の買い物希望にも対応している。	
			(外部評価) 日々の散歩のほか、法人施設の車を借りて出かけておられる。現在は月に2回、外食に出かけておられ、利用者は、寿司店のランチを好まれるようだ。店員の方とも顔なじみになり、ネタを食べやすいものや好みのものに替えてもらえるようだ。調査訪問時には、来月行う家族会の案内に使用するはがきを利用者と一緒に買いに行く相談をされていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理出来る方は、家族と相談しながら少額のお金を持たれ、買い物の際等、自身での支払いを行っている。現時点では、自己管理の難しい方が多く、基本的には預かり金を施設で管理し、月末には金銭出納帳のコピーを家族に送っている、	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に手紙を書いたり、希望者には、気軽に施設の電話を利用して頂いている。携帯電話を使用の方は、上手く使用出来てない事が多く、代わってかけてあげたり等の支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季折々の花や、行事のポスター。入居者と職員が毎月作るカレンダーを壁画にして飾ったりしている。自然の風を感じられる様、夏は網戸にすだれは、とっても好評です。	
			(外部評価) 玄関を出たところには長椅子を配置し、ちょっと外に出て過ごせる場所を作っておられる。プランターにはプチトマトが育ち、赤い実を付けていた。外でお茶を楽しむ時には、使われている背もたれのある居間の椅子を持ち出して使用されている。調査訪問時には、利用者が夏用の貼り絵を作っておられ、でき上がった作品は、カレンダーを付け併設老健施設に飾られるようだ。これまで作成した貼り絵は共用空間の各所に飾られていた。掃除を職員と一緒にを行う利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いてゆっくりくつろいだり、特に、日当たり良い2階リビングのソファでは、1人でソファに腰掛けテレビを見たり、皆と一緒に過ごしたりできるスペースが設けられている。玄関先の庭では、ベンチに座り外気浴や庭の手入れが楽しめる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、本人と家族が話しあいながら、本人の馴染みあるものや使い慣れた物を、持ち込んで頂くようお願いしている。本人の思いが興味・趣味や楽しみが途切れない様、ダンスやテレビ・ラジオや写真などで、本人の居心地良い居場所を作っている。	
			(外部評価) 居室の窓には内側からすだれを吊るして夏の雰囲気を作り、日差しを和らげておられた。利用者はそれぞれにテレビを持ち込んでおられ、昼食後、利用者は、自室に入りテレビを見たり、1時間程度昼寝をされている。事業所で用意している雑誌を自室で見る方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーにて移動しやすく、多くの手すりを設け、より安全に暮らせるようしている。自分の居場所がわかったり、行きたい場所がわかる様、貼り紙や目印をつけたり工夫している。	